

総合的な学習の時間－3（第4学年） 空間軸で情報を整理する力を育てる事例
【学習活動の概要】

1 単元名 復活させよう！地域が愛した『大久保つつじ』

2 単元の目標

江戸時代に栄えた「大久保つつじ」を地域の人に広めようとする活動を通して、「大久保つつじ」を取り巻く当時の様子や「大久保つつじ」を未来のまちづくりに役立てようとする地域の取組みを知り、地域のためにすすんで活動しようとする。

3 評価規準

- 【情報収集の力】課題解決に向けて目的をもって必要な情報を収集している。
- 【論理的思考の力】対象を複数の視点で分析したり、比較したりして考えている。
- 【コミュニケーションの力】地域の人とすすんでかかわり、自分の思いを伝えている。
- 【意思決定・行動力】地域に貢献できる活動を考え、力を合わせて実行している。

4 教材

本校の学区は、江戸時代後期から昭和初期にかけて、つつじの名所として広く知られていたという歴史をもつ。宅地化や戦災などにより姿を消した「大久保つつじ」をもう一度大久保の地に戻し、「つつじのさと」として魅力あるまちづくりを進めようとする地域の願いに着目した単元である。本単元の中心的な活動は、「大久保つつじ」を多くの人に知らせるための広報活動である。広報活動によって、改めて地域を見つめ直し、魅力あるまちづくりに携わる地域の人々の努力や工夫、地域への思いなどを知ることにつながると考えた。また、自らの国籍などに関係なく、地域の一員としての自覚をもち、地域社会にかかわる態度を育成したいと考え単元を構成した。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全35時間）

	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次	○なぜ、校章や新宿区の花が「つつじ」なのかを探り、「大久保つつじ」への関心を高める。(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・「つつじ」と大久保との関係を知るために、魅力あるまちづくりを推進している地域の方との出会いの場を設定する。 ・調査過程で生まれる問題を、調べたり、分析したりして、友達と協同で解決していくようにする。 ・考えたことを地域に伝えたり、地域の人と意見交換したりしながら活動する場を設定する。 ・活動したことやそこでの思考を確かな認識とするために、言語により振り返りまとめる活動を行う。
第二次	○地域の人々がどのくらい「大久保つつじ」を知っているのかを調査する。(6)	
第三次	○「大久保つつじ」を地域の人に広める方法を考える。(6) (本時 2 / 6) ○自分たちの考えや提案方法をよりよくするために、地域の人々のアドバイスを得たり協力を依頼したりする。(4)	
第四次	○実際に考えたことを実行し「大久保つつじ」を広める。(12) ○活動を振り返りレポートにまとめる。(2)	

(2)本時の学習

地域でのアンケート調査の結果をマップに整理することで、エリアごとの特徴をとらえ、その実態に応じた広報活動を考えることができるようにする。

- アンケート調査の結果を色別シールを使ってマップに整理する。
- マップに整理したアンケート結果からエリアごとの特徴を話し合う。
- 「大久保つつじ」を広めるための方法を地域の実態から考え発表する。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第5章 総合的な学習の時間 第3の2の(2)において、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること。」と示している。

体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることは、問題の解決や探究活動の過程において特に大切にすべきことである。そのためには、分析とは何をするのか具体的なイメージをもつことが必要となる。例えば、集めた情報を共通点と相違点に分けて分類したり、時間軸に沿って並べたり、原因と結果に分けたり、変化や結果を予測したり、現実社会の事象に当てはめたり、多面的・多角的に分析したりすることなどが考えられる。

本事例は、地域住民に対して行った1000人分のアンケート調査の結果を基に、地域の実態を把握し、その実態に応じた方法を考える場面である。エリア毎の分布の特徴をとらえるためには、他のエリアと比較したり、他の情報と関連付けたりなどの考える力が求められる。そうした思考力を育成するためにも、地域の拡大マップにエリア毎の調査結果を落とし込み、話し合う活動を行った。

【言語活動の充実の工夫】ーマップ上に整理した情報を基に話し合う活動ー

児童は、「大久保つつじ」が地域でどれくらい知られているのかに疑問をもち、地域住民に対してのアンケート調査を行った。「データの収集→地図上への整理」を繰り返し行いながら、1000人を超えるデータを整理することができた。本時は、地域住民に対して行った1000人分のアンケート調査の結果を基に、地域の実態をとらえ、具体的な対策を考えるための話し合い活動を行った。

①アンケート調査の結果をマップに整理する。

よく知っている	… 緑シール
知っている	… 黄シール
ほとんど知らない	… 桃シール
知らない	… 赤シール



②マップを見ながら地域の実態や特徴を話し合う。



③地域の実態や特徴を踏まえ、「大久保つつじ」を広めるための方法を考える。

マップによる整理は、膨大なデータを可視化しとらえやすくする。児童たちは、他のエリアと比較したり、その土地の歴史的な背景と関連付けたりして特徴の原因等も考えていった。マップを中心に置きながら活発に話し合いを行い、地域の実態や特徴を明らかにしていくとともに、その実態に応じた「大久保つつじ」を広めるための方法についても、次のように考えることができた。

「ほとんどの人が大久保つつじを知らない。でも、百人町周辺は知っている人がいる。江戸時代大久保つつじを栽培していた鉄砲隊が住んでいたからだろうか。」

「大久保通り周辺には、外国の人が多く、ほとんど知らない。外国の人に知ってもらうには、いろ



いろ いろな国の言葉で書く必要がある。」